



新しい図書拠点イメージを共有し、考えた・・・

1月16日にかわら美術館ホールで、約70人が参加し、図書館のチカラの可能性を考えました。

進行の概要

- 第1部：市からの説明+浅野さんの感想など
- 第2部：皆さんからの事前質問と当日意見をもとにゲストを囲んで考えました。

これからの図書館のカタチカラ

第15回 第3回 図書館フォーラムの報告

高浜市において、これからの時代にふさわしい「図書館のあり方」(役割・必要な機能)について、『これからの図書館のカタチ・チカラ』と題して、『広報たかはま』などをおして市民の皆さんとともに考えています。

今号は第3回図書館フォーラムの概要を紹介します。

この連載に関する感想などは、こちらのアンケートフォームから



ゲスト 浅野 隆夫さん 総務省地域情報化アドバイザー(札幌市中央図書館 利用サービス課長) の言葉

概要

◇図書館の意義は?

札幌市中央図書館ではコロナ禍で来館する方は減少していますが、皆さんの本への関心は変わっていないと思います。ネット予約をして、自宅近くの別の図書施設で受け取るなど、利用者さんは図書館を賢く使われているんですね。そして、予約した本が中央図書館の本なのか、地区センター図書室の本なのかは問われていなくて、自身の所に本が届くことが第一に便利と感じる方が多いのではないかと思います。

では、「今後、図書館に求められていくものとは?」といわれると、司書の仕事の基本は“本と人を結びつける”ことですので、レファレンス、つまり読書相談や調べもののお手伝いだと思います。

◇全国的な図書館の流れは?

高浜市だけでなく、移転という話は全国であります。ただ移転を機に「図書館はだれのためにあるのか」ということを考えて、新しくサービスを考え直すところが多いですね。

図書館で言われている図書館学5法則の1つに「図書館は成長する有機体」という言葉があります。人間と同じで、さまざまな状況に合わせて変化し、成長し続けることが図書館にも求められていると思います。



参加者の声など (当日意見およびアンケートの一部より)

- 図書館を“交流の場”とすることは、とてもいいと思います。
- これからは、人ありきの運営をめざしていこうという考えが伝わりました。
- こども図書は高齢になって読むことが増加しました。古典や生き方につき、学ぶ媒体となっています。
- 図書館は敷居が低いところです。行政に直接相談できないことも司書さんには言えたりします。いきいき広場は、そういった相談・案内の場になりえると思います。



このほか参加者の皆さんから、さまざまなアイデアなどをいただきました。ありがとうございました。これからは移転を機として、皆さんの困りごとの解決や行動に結びつくよう、本とおした「くらしや活動のサポート」を行い、皆さんと情報、皆さん同士をつなぐといった、「活動とつながる場」を意識し、さらに検討を深めていきます。



- ◆ 図書館での催しに関しては15ページに記載がある「図書館情報」や図書館公式ホームページ、フェイスブックおよびツイッターを確認してください。
- ◆ 連載は今号で一旦終了します。4月以降も進捗状況などについて随時お知らせしていきます。



▲ホームページ ▲フェイスブック ▲ツイッター

問合せ先 [いきいき文化スポーツグループ](#) ☎ 52-1111 (内線331)